



特別会談 三日月大造滋賀県知事を迎えて

滋賀県の医療や住民の健康に関わる課題解決に向けて 滋賀医科大学に期待すること

8月1日、三日月大造滋賀県知事が滋賀医科大学に来学され、医学部附属病院や動物生命科学センター、ヘリポートなどを視察されました。

視察後、塩田浩平学長、松末吉隆病院長を交えて、滋賀の医療の現状や今後の展望、滋賀医科大学の役割などをテーマに意見交換が行われました。

滋賀県知事
三日月大造
滋賀医科大学学長
塩田浩平
滋賀医科大学医学部附属病院長
松末吉隆

みかづき たいぞう
三日月 大造
しおた こうへい
塩田 浩平
まつすえ よしたか
松末 吉隆

自治体との連携に力 地域医療への貢献

学長：滋賀医科大学は今年で開学42年になります。本学は「地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく」をモットーに、地域医療への貢献を大きな使命としてやってきました。本日は、滋賀県の医療・保健・福祉について、知事がどうしてお考えで取り組んでおられるか、またその中で滋賀医大に期待されることがあれば是非伺いたいと思います。

知事：まず、開学以来42年、医師・看護師という、私たちの生活、生命、健康にとってなくてはならない5000人近くの人材を輩出していただき、その教育・研究活動に携わってこられた、歴代のスタッフの皆様方に感謝申しあげたいと思います。「地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく」、これは校是と伺っておりますが、まさにその校是を体現される学校経営や病院経営、教育・研究活動をしていただいていることを実感しています。

滋賀県も人口減少局面に入りまして、一人ひとりの命や人生をもっと大切に、人と人との絆をもっと深め、加えまして人と自然との関係をもっと豊かにすることによって、「今だけ、物だけ、お金だけ、自分だけの豊かさ」ではない、新しい豊かさを創り、みんなで実

感できるそういう滋賀県を創造したいと考えております。その意味においての豊かさという点、やはり環境豊かなところに住んでいること、自分の能力を高めるために教育・学習活動が充実していること、暮らしや生業に不安がないこと、行きたいところに行けること、いろいろな形で触れ合えること、これに加えて何より大切なのは心身ともに健康であるということです。そのため、豊かな教養と高い専門知識を育み、医療・保健・福祉に欠かせない人材を育てていただければ、こういう滋賀医科大学との協同関係はこれからはますます大切になってくると思っておりますので、これまで以上に連携を強め、深めていきたいと考えています。

学長：ありがとうございます。現在、卒業生約5000人の3分の1が滋賀県で働いていますが、在学中から将来滋賀の医療に貢献するような教育をいろいろな形で行っていきます。例えば滋賀の魅力や講義で教えたり、在学中の学生をOBや地域の方にサポートしていただく里親制度もたいへん役立っています。滋賀県内でも地域によっては医師が不足していますので、地域医療の問題についてはこれから行政と緊密にタイアップしていく必要があると思います。その中で地域枠の学生に県の奨学金を出していただき、たいへんありがたく思っています。



滋賀県知事 三日月 大造

知事：医師不足、医師偏在を克服していくために連携協力しながら、地域枠を作り、地域に根ざした医療人を育ててきたという歴史もあります。

里親制度という形で、まさに5000人も人的ネットワークを重層的、多角的に生かして、先輩が後輩の面倒を見たり、また、県外出身の学生に滋賀の歴史を教え、人的な関係を強固にして、滋賀で医師になろう、看護師になろうという、こういう心の通った教育活動を実践していただいております。このことは是非これからも大切にしていきたいと思っております。一朝一夕にできることではありませんし、これは滋賀県と滋賀医科大学が誇るべき関係ではないかと思えます。

病院長：滋賀医大が開学以来地域に根

ざして地道に努力し、地域で育てていただいているという証だと思っております。新しい医師臨床研修制度ができて13年になります。一時、大学から若い医師が少なくなったこともありましたが、少しずつ戻ってきておりまして、時間はかかるかと思いますが、県の北部の方に医師が少ない、あるいは偏在しているということも、少しずつ解消に向かっていくと思えます。

知事：高大連携の取り組みを非常に積極的に推進していただいております。これ、これも滋賀で学ぶ、滋賀で医療人になろうという志を伸ばしていく貴重な取り組みだと思っております。

学長：本学では以前から県内の高校と連携して、本学の教員が高校へ出向いて出前授業を行ったり、本学で講義や医学実習を体験していただく模擬授業をやってきました。

知事：もちろん、最新の高度な専門知識が要求される世界ではありますが、琵琶湖が眺められる環境で学べるということ、是非私達は力にしたいと思っております。滋賀の地は、古来より人が命の源泉である水を大切に、時には祈りの聖地になった場所、そして人を癒す場所であると思っております。

地域活性化(地方創生)における 大学の役割と産官学連携

学長：大学と社会の関係がたいへん重要ですが、教育・研究に加えて産学連携、我々の立場で言いますと医療イノベーション、医工連携も重要です。滋賀県にはユニークな企業がたくさんありますので、ぜひ医工連携を進展させていきたいと思っておりますが、まだまだ不十分です。県でもいろいろな仕組みを考えていただいているところですが。

知事：医療、健康、福祉、リハビリテーション、これは私たちのニーズであるとともに、ある意味ではビジネスチャンスにもなります。様々なものづくりの技術を生かして、ニーズに応える機器や薬といったものを生み出していき、そういう分野だと思っております。お



滋賀医科大学学長 堀田 浩平

かげさまで滋賀にはこの滋賀医科大学があり、日本を代表し世界に誇れるグローバル企業があり、マザー工場であったり研究開発の拠点施設であったりします。そういった企業と医療の教育・臨床の現場とを繋いで、これからの時代のニーズに応える機器や薬などを開発していけるよう、「滋賀健康創生」特区に指定をいただいで、様々な取り組みを行っています。シーズとシーズのマッチングではまだまだ可能性がありませんし、シーズのままでも埋もれている研究分野もたくさんあると思います。より積極的に情報交換ができるプラットフォームづくりを進めていきたいと思っています。

学長：企業とのマッチングの場も設けていただいていますね。

や負担も必要で、とりわけ大学の経営が非常に厳しくなっている現在においては容易なことではないということも感じています。その意味で最初の投げ掛けにも通じるかもしれないが、より地域との連携を密にした取り組みが重要になってくると考えています。

学長：国立大学の現状は、報道もされていますようにたいへん厳しくなっています。競争原理を取り入れるのは当然ですが、運営費交付金が法人化以来、12年間に毎年1〜1.3%削減され、国立大学法人がたいへん苦しい状況になっていきます。国際的なランキングも軒並み落ちてきているということ、たいへん危惧される状況です。

知事：これからの国や地域を創っていくために、それぞれの分野の高度な人材を養成する教育機関、これは極めて大事な役割を果たします。ましてやグローバル化していろいろな仕組みが複雑化する世の中においては、ますます重要性を増してくると考えています。その中であって、競争原理や予算の配分だけで、その教育環境が厳しい状況に追いやられてしまうのは、私もならない事態だと思っています。その意味で一つ私のほうから提案し、これからの課題として考えたいと思っっていることは、滋賀医科大学の持っているリソースだとか様々な取り組みを、す

知事：滋賀県産産業支援プラザとともに、「しがウェルネスファーム」というプラットフォームを活用した健康支援サービスの創出をめざす取り組みもしています。特に大学に眠るまだ光が当てられていない技術やシーズを、県のサポートのもとにビジネスの世界と結びつけていけるような仕組みづくりを今年度から始めたいです。

病院長：理工学部のある立命館大学、それから龍谷大学の社会福祉や栄養学、食と運動、リハビリなどは健康に必要な要素ですね。精神とカルチャーそういうものも必要です。ここ文化ゾーンには健康で充実した人生を送るうえで必要なリソースがそろっています。高齢化社会に向けての介護やリハビリの機器に関しても、充分開発をサポートしていける環境がそろっています。その中でもどうしても医科大学でないといけない部分があります。今、臨床研究開発センターを非常に充実した内容に整備を進めています。特にその中で医工連携、医療機器関係に発信できるようなシステムづくり、組織づくりを進めております。

知事：ものづくりの関係でもそうですし、バイオメディカルイノベーション

に随分ご努力いただいているのですが、もっと多くの方に知っていただくという努力をお互い積み重ねることによって、例えば動物生命科学研究センターの取り組みなどは、次の時代の薬とか治療方法を確立するうえで、極めて大切な研究教育分野であると思いますし、さまざまな機器開発のために積み重ねてこられた貢献、こういったこともまだまだ県民、国民に知られていないと思います。それを知ってもらうことによって、学生が集まり、研究者が集うということもあるんですが、こういう分野に予算を投入することに對する理解が進むことになると思います。これもある意味では大学とその大学の所在する自治体とが、もっとも連携できる分野ではないかと思えます。

例えば周産期医療センターやNICUの取り組みなども、今まで助からなかった命を助けていただくという意味において役割を発揮されています。滋賀県と連携して取り組んでいただいている、がんの治療などを受ける患者さんの生殖機能を保存する妊孕性温存、そういう取り組みも次の時代に必ず役立つでしょうし、認知症の治療方法や治療薬の開発にも取り組んでいただいております。こういったことを国や世界に対して一緒に発信し、理解や協力を得られるような環境を整えていけたらと思えます。

センター、これも多くの企業とマッチングが可能な事例がたくさんあると思います。昨年度は龍谷大学に農学部が開設され、2年後には立命館大学に食科学部が開設されようとしています。人間の健康にとって大事な食や農という研究教育機関がここに集積されますし、また県立体育館もこの滋賀医科大学に隣接する緑の中に建設すべく準備をしています。医療研究、健康開発ゾーンとして、まだまだこの地域には可能性があると思います。

学長：今おっしゃった意味でも、県内13大学の環びわ湖大学地域コンソーシアムは、たいへん重要な組織だと思います。また、単位互換制度も十分には機能していませんが、滋賀県の特徴を生かしながら発展させていきたいと思っています。

知事：放送大学を入れて13の大学があり、3万人を超える学生がこの滋賀で学んでいます。他の都道府県にはなかなかないもので、非常に恵まれた環境でもありませんし、医科大学をはじめ理工系、文科系、デザイン系やスポーツ系、バイオ系など様々な分野の大学が入っていますので、そういったところの例えばコミュニケーションなどが、単位の互換性とかいうことも視野に入れないながら取り組みを進めていけたらと思います。

実はあまり知られていないのです

病院長：確かに大病院も数ある中核病院の一つであることには間違いないで、8割方は一般の病院でもできる標準的な医療をより質の高いレベルで、より成績の良いレベルでやろうとしているわけです。残りの1〜2割については他ではなかなか難しい症例で、この部分の高度医療をやればやるほど出費がかさんで、経営的にはマイナスになる場合が多いのです。しかし、最終的な受け皿になる特定機能病院、県内唯一の大病院として、どうしてもやらなくてはいけない特定領域のいくつかの分野があります。特に周産期とか小児医療、精神とかは、県からもいろいろサポートをいただいております。また、循環器についてはかなり自力で投資してまいりまして、非常に質の高い医療を提供しております。そういう他所ではできないようなところには是非、県のご理解をいただき、引き続きサポートをいただけたらありがたいと思います。

知事：高度高質な医療を提供すれば、同時に経営の面での課題も出てくるということですが、しかしベシクな部分で病院として期待される役割もあり、そういう中での病院経営は本

が世界に誇る機関としまして、ミシガン州立大学連合の日本センターが彦根にありまして、これは米国ミシガン州と滋賀県が湖で繋がる友好姉妹県州ということ、48年の歴史がございます。日本と米国の関係では極めて希少な交流の積み重ねがあつて、こういったところでも世界に開かれた関係づくりができたらと思っています。

学長：国際化、グローバル化ということが、大学のもう一つの大きな課題です。留學生を増やし、こちらから外国へ行く學生も増やしたいと思っています。また、滋賀県は非常にいいので、外国の學生を呼び込めたらと思っ

滋賀県における医療の課題と滋賀医大の役割

学長：滋賀県の医療について、特に感じておられることはありますか。

知事：私も県外に住んでいたことがありますが、その時に感じていたことは、自然豊かな環境で非常に大学と現場の医療機関との連携が密で、いざという時にすぐに2次から3次、あるいは高度医療に引き継ぐことができるということでした。そういう医療環境というのは、今後の安心に繋がります。ただ同時にこの環境を維持し、時代の要請に応じて高めていくには、多大なる労力

当にたいへんだと思います。だからこそ、病院長が言われたように地域との連携の中で、より高いレベルで役割を発揮していこうとする分野、次の時代を見通して特色のある専門分野として磨いていこうとされる分野、ある意味では先見性も問われますし、説明責任というものも問われますので、こういったところをぜひ協力しながら進めていければと思います。

議会でも医療・福祉・健康はテーマとして多いですし、滋賀医科大学が果たす役割などについても問われることが多くあります。この点でも、私はこれまでの取り組みがじわっと県民に広がってきている一つの証左ではないかと思

学長：これからどんどん高齢化が進み、



滋賀医科大学医学部附属病院長 松末 吉隆



生活をされる方の医療体制を作っていくためには、医師だけではなく様々な専門職の方と連携した、まさに顔の見える関係が必要です。しかしその核になるのはどうしても医師になりますので、そういう役割を担っていただける人材を、滋賀医科大学で育てていただければと思います。

もう一つ、医師や看護師も人間であり、それぞれの人生、生活がある中で、そのライフプランやキャリアプランをサポートするための滋賀県医師キャリアサポートセンターは、とても有益有用だと考えています。

学長：これは大学病院内に相談窓口を開設して、県と一緒に進めさせていただいていきます。

疾病構造が変わってきて病院の機能分化が進みますので、大学病院、いくつかの基幹病院、地域の病院や診療所が連携し、県と大学、他のいろいろな機関とのネットワークの中で、どう役割分担をしていくかがたいへん重要になっています。

知事：まったく同感です。病院ごとの、また診療所などとの関係も大事になってくるでしょうし、地域や在宅で療養

割分担もしながら、しかし滋賀医科大学と行政とがしっかりと連携して、今おっしゃったような分野に取り組むことが大事だと思います。

病院長：もう一つ、地域医療教育研究拠点というのを置いています。最初は滋賀県に寄附講座を開設していただき、国立病院機構東近江総合医療センターで活動していましたが、そこに拠点を置き、学生教育と卒後のレジデント教育を行っています。さらに、昨年JCH O（地域医療機能推進機構）滋賀病院に2番目の拠点を置きました。今後は、湖北や甲賀地域にも拡充していったら、そこに大学の教員が外向して教育を担当するということで、将来は大学と連携した地域医療を行い、医師を育成することができると考えています。

知事：大切な取り組みですね。

学長：総合医療、地域医療については、現場を学生が訪問して実習させていただいています。大学の授業の一環として、カリキュラムの中に組み込み、正課として実施しています。

知事：あと、女性医師の活躍環境はどうですか。

病院長：滋賀医大は若い女性医師が結構多いです。はっきりした比較数値は今持っていませんが、女性医師が勤務しやすい環境があるからだと思います。

知事：そうですね。そういう環境を是

あるということに理解が広がるような体制を取っていくことが大事だと思います。

病院長：現在、多職種連携の人材育成と、看護師の特定行為研修に取り組んでいます。2025年から35年と言われますが、そこにかけてかなりの数の看護師やメディカルスタッフが必要になります。とても医師だけでは足りませんので、そういうチームづくりを滋賀県と一体となってやっていかなくてはならないと感じています。今はどうしても出費だけが目立ちますが、一定のご理解をいただいて、これが滋賀県全域に広がっていくようにしたいと思います。

知事：期待もしていますし、是非我々も協力して取り組んでいきたいと思っています。

学長：看護師が一部の医療行為を行うことが特定行為として、昨年に研修制度が始まりましたが、滋賀医大は国立大学の中で最初に研修機関の認定を受けて、平成28年度からスタートしました。

知事：以前は県外まで研修に行ってもらっていたのではなかったでしょうか。滋賀医大でこういうことをやっていただけると、随分滋賀の人材養成が進みますね。

病院長：非常にモチベーションの高い受講生が集まっていて、県外からこ

年齢に、非常に大事な時期を迎えられるということと、随分ご苦労されるそうです。そこで一方を諦めるのではなく、ご自身の出産・子育てなどもきちんと果たしながら、研究活動や医療活動ができるように応援してあげられたらいいですね。

学長：これまで女性教員だけを対象としていた前述の学生による研究支援員配置制度を、昨年度から男性教員も対象としまして、直接的間接的いろいろな方法で、女性を支援するという取り組みもこれから一層推進していきたいと思っています。

最後に若い学生に一言メッセージをお願いできますか。

知事：折りに触れ学生の皆さんと交流懇談できる機会が持てることを願います。例えば学園祭の時とか、そういうプログラムで、皆さんと懇談する機会があればいいと思いますし、在学中にどれだけ地域の方と触れ合っていたか、交流していただくか、この地域との関係を深くできるかどうかの鍵だと思いますので、我々の方からもどんな情報を大学に投げか

らに移り住んで研修を受ける方もいるほどです。修了すると厚生労働省に登録されまして、ごこの施設に行っても特定行為ができるようになります。

地域医療の担い手

「総合診療専門医」の育成に向けて

病院長：今、一番期待されているのは在宅医療も含めて、総合医として地域を診ることが出来る医師だと思います。我々も受け皿としてまず病院の中で総合的に診られる医師を育てようとしています。国が今までそういう考え方で医師を養成してこなかったため専門分野ばかりにいつてしまっていて、地域医療を担う病院が困っておられます。

知事：今度の新専門医制度の中では、そういう領域はどう位置づけられるのですか。

学長：19ある専門医の中の19番目が総合診療専門医です。

病院長：本学でもプログラムを立ち上げまして、準備を始めようとしていますが時間がかかります。他の地域、例えば湖北とかいろいろなところでも同じように立ち上げて、滋賀県全体で医師が育つようにしていきたいと思っています。

知事：それは医科大学だけにお任せしてやっていただくというのではなく、むしろ一緒にやりたいと思います。役

けて、一緒に連携して取り組んでいきたいと思っています。夢と志を持って勉強に取り組む、研究や医療活動に取り組んでもらえるよう、私たち滋賀県は知事以下全員で皆さん方の志を支えていきたいと思っています。

学長：私たちも今まで以上に滋賀県の医療を良くするために努力したいと思っていますので、今後ともどうかよろしく願います。本日はどうもありがとうございました。

知事：ありがとうございます。たいへん勉強になりました。

